



FeliSafe[®]/50 for Windows
Ver6.0

ユーザーズマニュアル



WindowsNT、Windows2000、Windows95、Windows98、Windows98SE、WindowsME は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
FeliSafe®は、サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社の登録商標です。

1. 本書および本ソフトウェアは、サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社が著作権を保有しています。
2. 本書および本ソフトウェアの内容の一部あるいは全部について複写、複製することは禁じられております。
3. 本書または製品の内容につきましては、将来予告無しに変更することがあります。
4. 製品の取り扱いにつきましては、取扱説明書などをよくお読みください。
5. 製品の内容につきましては万全を期しておりますが、万一不可解な点や、誤り お気付きのことがありましたら、下記の住所に御一報くださいますようお願いいたします。
6. 運用の結果の影響については上記事項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

四日市市本町 1-15 〒510-0093

TEL 0593-55-0571

FAX 0593-59-3021

<http://www.cynet.co.jp/>

feliinfo@cynet.co.jp

サイバー・ネット・コミュニケーションズ株式会社

目次

1.	FeliSafe [®] /50 for Windows について.....	1-1
1.1.	FeliSafe/50 for Windows ご使用にあたって.....	1-1
1.2.	FeliSafe [®] /50 for Windows について.....	1-1
1.2.1.	概略.....	1-1
1.2.2.	機能.....	1-1
	UPS 電源状態監視および自動シャットダウン.....	1-1
	電源異常等の事象の記録と通知.....	1-1
	電源状態のモニタリング.....	1-1
	定時設定.....	1-1
	カレンダー設定.....	1-2
1.2.3.	停電時等のシャットダウン処理.....	1-2
1.2.4.	動作環境.....	1-3
2.	FeliSafe [®] /50 for Windows のインストール.....	2-1
2.1.	インストール前の注意点.....	2-1
2.1.1.	コンピュータと UPS の接続.....	2-1
	インタフェースケーブルの接続.....	2-1
	電源の接続.....	2-1
2.1.2.	以前の FeliSafe [®] /50 をご使用の場合の注意点.....	2-1
	以前の FeliSafe [®] /50 for WindowsNT をご使用の場合.....	2-1
	FeliSafe [®] /50 for Windows95 をご使用の場合.....	2-1
	WindowsMe をお使いの場合.....	2-2
2.1.3.	コントロールパネルの設定.....	2-2
2.2.	インストールプログラムの起動と実行.....	2-2
2.2.1.	インストールプログラムの起動.....	2-2
	WindowsNT Ver4.0、Windows2000 の場合.....	2-3
	WindowsNT Ver3.51 の場合.....	2-3
	Windows95・Windows98・WindowsMe の場合.....	2-3
2.2.2.	インストールプログラムの実行.....	2-3
3.	FeliSafe [®] /50 の起動.....	3-1
3.1.	OS ごとの起動方法.....	3-1
	WindowsNT の場合.....	3-1
	Windows95・Windows98 の場合.....	3-1
3.2.	実行アカウントの変更.....	3-1
4.	FeliSafe [®] コントロールモニタの操作方法.....	4-1
4.1.	FeliSafe [®] コントロールモニタ起動、終了.....	4-1
4.1.1.	起動方法.....	4-1
	Windows2000 の場合.....	4-1
	WindowsNT Ver4.0 の場合.....	4-1
	WindowsNT Ver3.51 の場合.....	4-1
	Windows95・Windows98 の場合.....	4-1
4.1.2.	終了方法.....	4-1
	Windows2000・WindowsNT Ver4.0・Windows 95・Windows98 の場合.....	4-1

WindowsNT Ver3.51 の場合.....	4-1
4.2. FeliSafe®コントロールモニタ画面.....	4-2
4.2.1. 通常表示状態.....	4-2
4.3. メニュー操作.....	4-4
4.3.1. 管理.....	4-4
サーバー選択.....	4-4
4.3.2. シャットダウン.....	4-5
4.3.3. 設定.....	4-7
4.4. FeliSafe®/50 for Windows によるシャットダウン.....	4-11
4.5. FeliSafe®/50 for Windows 以外でシャットダウンを行った場合 4-11	4-11
4.6. シャットダウン取り消しを行った場合.....	4-11
4.7. 設定時間以外の起動.....	4-11
4.8. UPS タイマーの限界について.....	4-11
5. OS のアップグレードについて.....	5-1
5.1. FeliSafe ご利用中の OS のアップグレードインストール.....	5-1
5.1.1. WindowsNT Ver4.0 から Windows2000 へのアップグレード.....	5-1
5.1.2. Windows95/98 から Windows2000 へのアップグレード.....	5-1
削除を行わないで Windows2000 へのアップグレードを行ってしまった場合.....	5-1
5.1.3. Windows95/98 から windowsMe へのアップグレード.....	5-1
6. ご利用いただく際の注意点 - 必ずお読みください.....	6-1

1. FeliSafe[®]/50 for Windows について

1.1. FeliSafe/50 for Windows ご使用にあたって

ソフトウェアの使用前に、必ず別紙の「ソフトウェア使用許諾契約」をお読み下さい。
お客様が本契約に御承諾頂けないときには、ご使用前にお買い求めになった販売店へご返却下さい。

ご注意

インストール用メディア開封後の返却は、一切お受けしませんのでご了承下さい。

1.2. FeliSafe[®]/50 for Windows について

1.2.1. 概略

FeliSafe[®]/50 for Windows は、Windows システム上で稼動する、ユタカ電機製作所製インテリジェント UPS 専用の電源管理システムです。

Windows のサービスプログラムとして、接続されている UPS 常にを監視し、UPS に異常が発生した場合は、即座に Windows のシャットダウン (Windows95、Windows98、Windows98SE、WindowsME をご使用の場合は、Windows の終了。以下同様。) 処理を行うとともに UPS を停止します。

また、UPS の各種状態の表示、記録を行うことにより UPS の状態を動的に把握することが可能です。

停電発生など、Windows を終了しなければならない状態になった場合に FeliSafe[®]/50 for Windows はイベント設定による処理、通知を行い **停電時等のシャットダウン処理 (page2-2)** を行います。

1.2.2. 機能

UPS 電源状態監視および自動シャットダウン

UPS 監視ソフトは、常に接続されている UPS を監視し、UPS に異常が発生した場合は即座に OS のシャットダウン処理を行うとともに UPS を停止します。

停電 / 電源復旧などのイベントに対して特定のプログラムを実行するように設定することも可能です。

電源異常等の事象の記録と通知

停電・電源復旧・シャットダウン開始等の事象の検出と、各イベントに設定されたプログラムの起動を記録できます。また、ネットワーク上のコンピュータに、各イベントの通知をすることも可能です。

電源状態のモニタリング

モニタプログラムにより、電源状態をリアルタイムに表示しますので、動的な電源状態の把握が可能です。

定時設定

毎日の定時にシャットダウン、電源投入を行うように設定する機能です。
朝に自動機能して、夜にシャットダウンするといった運転が可能です。

1.2.4.動作環境

FeliSafe®/50 for WindowsNT は以下の環境で動作いたします。

OS:Microsoft 日本語 WindowsNT Ver3.51、Ver4.0および Windows2000

CPU:上記 OS が動作可能な Intel 製プロセッサ

UPS:FeliSafe®/50 対応 UPS

FeliSafe®/50 for Windows95/98 は以下の環境で動作いたします。

OS:Microsoft 日本語 Windows95 および Windows98

UPS:FeliSafe®/50 対応 UPS

2. FeliSafe[®]/50 for Windows のインストール

2.1. インストール前の注意点

2.1.1. コンピュータとUPS の接続

インストールの前に以下の手順で UPS とコンピュータの接続をしておいてください。

インタフェースケーブルの接続

同梱のケーブルにてシリアルポート (COM ポート) と UPS 背面の "I/F" コネクタとを接続して下さい。

どのシリアルポートに接続したかは FeliSafe[®]/50 for Windows のインストール時に指定する必要がありますので、接続したポートを確認しておいて下さい。

注意 - ケーブルが不用意に外れないようコネクタは必ずネジ止めして下さい。

電源の接続

以下の手順で UPS の電源接続を行なって下さい。

- コンピュータの電源コードを UPS の背面のコンセント (UPS OUTPUT) に接続して下さい。
- ハードディスク等の周辺機器、および停電時に電源のバックアップが必要な周辺装置の電源コードも UPS のコンセントに接続して下さい。
- UPS の電源入力コードを UPS の背面の INPUT コネクタに接続して下さい。
- UPS の電源入力コードをコンセントに接続して下さい。
- UPS の電源を投入して下さい。

各 UPS の電源コードの詳細については、それぞれの UPS の取扱説明書を参照して下さい。電源容量の関係から、プリンタ等停電時に停止しても差し支えない周辺装置の電源は、一般のコンセントに接続することをお勧めします。

2.1.2. 以前の FeliSafe[®]/50 をご使用の場合の注意点

以前の FeliSafe[®]/50 for WindowsNT をご使用の場合

Ver2.00 以前の FeliSafe[®]/50 for WindowsNT をインストールされている場合には、Ver2.00 以降のバージョンのインストールを行う前に以前のバージョンがインストールされているディレクトリ内のファイルをすべて削除してから新たにインストールを行って下さい。

Ver2.00 以降の FeliSafe[®]/50 for WindowsNT をインストールしてあり、別のディレクトリに新しくインストールを行った場合には以前のバージョンのファイルが残ってしまいます。

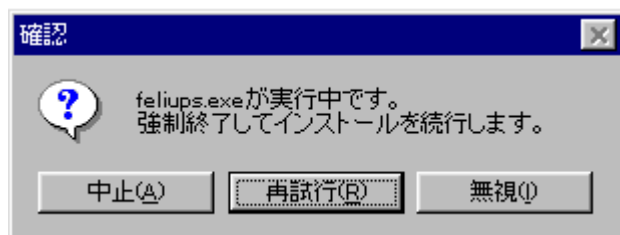
すでに FeliSafe[®]/50 for WindowsNT が導入されているシステムに導入する場合には最初に FeliSafe[®]/50 コントロールモニタを終了させてからインストールを実行して下さい。

FeliSafe[®]/50 for Windows95 をご使用の場合

すでに FeliSafe[®]/50 for Windows95 が導入されているシステムに導入する場合には最初に FeliSafe[®]/50 コントロールモニタを終了させてからインストールを実行して下さい。

FeliSafe[®]/50 for Windows95 Ver1.00 をインストールされている場合に、コントロールモニタを終了させても FeliUPS 監視プログラムが正常に終了できない場合があるために、インストール中に下記のようなメッセージが表示される場合があります。

この場合は「再試行」を押してインストールを続行してください。
再度メッセージが表示される場合はもう一度「再試行」を押してください。
再度「確認」画面が表示される場合は、「中止」を押して、インストールを中止したうえで、



コンピュータを再起動した後、FeliSafe コントロールモニタを終了させてください。
すべてを終了させるかどうかを聞いてきますので、「はい」を選択してその後、インストールして下さい。

WindowsMe をお使いの場合

WindowsMe をお使いで、すでにインストールされている FeliSafe®/50 for Windows をバージョンアップなさる場合は、上記「FeliSafe®/50 for Windows95 をご使用の場合」と同様に、インストール中にメッセージが表示される場合があります。この場合は、「再試行」を選択してください。繰り返しメッセージが表示される場合は、再度「再試行」をクリックしてください。

インストールの続行が出来ない場合は、「中止」を選択して FeliSafe®/50 コントロールモニタを終了させ、インストールをやり直してください。

2.1.3.コントロールパネルの設定

コントロールパネルの設定は、WindowsNT・Windows2000 をお使いの方のみが対象となります。

WindowsNT ではコントロールパネルの「シリアルポート」と「無停電電源(UPS)」をそれぞれ確認します。

Windows2000 では、「コントロールパネル」-「管理ツール」-「コンピュータの管理」のデバイスマネージャ内にある「シリアルポート」と、コントロールパネルの電源オプション内にある「UPS」タブをクリックした画面で確認します。

シリアルポートの設定

シリアルポート設定の速度などの設定は、FeliSafe の動作には影響しませんので、特に設定の必要はありません。

詳細設定にある IO ポートアドレスと割り込み番号の設定は、正常にシリアルポートが使用できるよう、重複等が起きていないか確認してください。

無停電電源 (UPS)

コントロールパネル内の無停電電源に関する設定は、FeliSafe の設定とは無関係ですので、組み込みポートの設定（無停電電源装置がインストールされているポートのチェック）を行わないでください。

設定を行いますと、FeliSafe は正常に動作いたしません。

2.2. インストールプログラムの起動と実行

2.2.1.インストールプログラムの起動

インストールをはじめる前に 2.1. 「インストール前の注意点」を必ずお読みください。

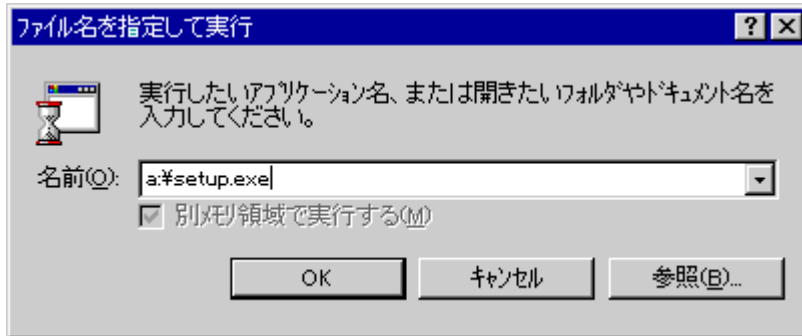
FeliSafe®/50 のインストールディスクをフロッピードライブに挿入し、インストールプログラム

(setup.exe)を実行することによりインストールを開始します。

WindowsNT Ver4.0、Windows2000 の場合

FeliSafe®/50 for WindowsNT のインストールは administrator もしくは同等のサービス機能を実行できる権利のあるユーザでログオンした状態で行ってください。

「スタート」ボタンより「ファイル名を指定して実行」を選択し、以下のように入力後「OK」



を押して下さい。

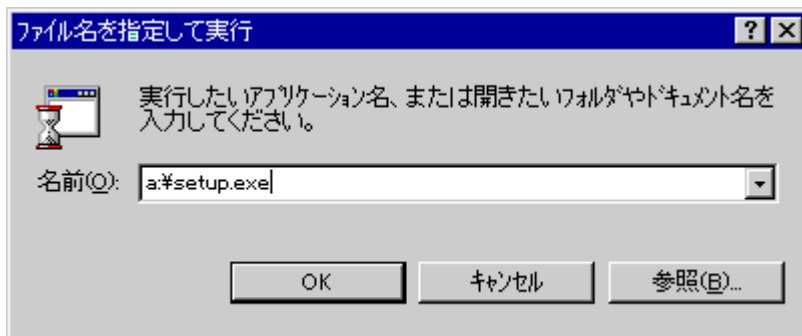
(上記の例はフロッピードライブが A ドライブの場合です、お使いのシステムのフロッピードライブが A 以外の場合はシステムにあったドライブに変更してください)

WindowsNT Ver3.51 の場合

ファイルマネージャを起動してインストールディスクを挿入したドライブを選択して下さい。インストールディスクの中の SETUP.EXE を選択し、「ファイル」メニューの「開く」または「名前を指定して実行」で SETUP.EXE を実行して下さい。

Windows95 ・Windows98 ・WindowsMe の場合

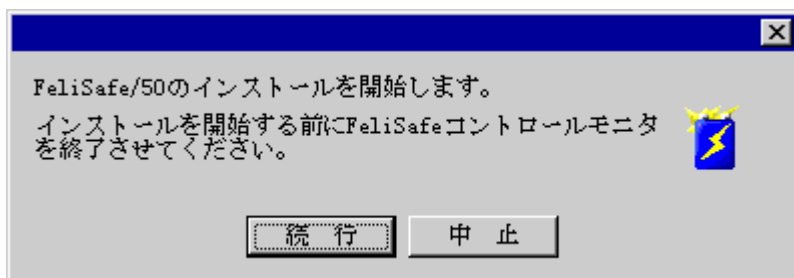
「スタート」ボタンより「ファイル名を指定して実行」を選択し、以下のように入力後「OK」を押してください。



(上記の例はフロッピードライブが A ドライブの場合です、お使いのシステムのフロッピードライブが A 以外の場合はシステムにあったドライブに変更してください)

2.2.2. インストールプログラムの実行

インストールプログラムが起動されると下のような確認ウィンドウが表示されます。



インストールの際には FeliSafe コントロールモニタを終了させていない場合にはこの段階で「中止」して FeliSafe コントロールモニタを終了後に再度インストール作業を行ってください。

インストール中に「Cancel」ボタンによって作業の中断が可能ですが、中断を行うことにより不要なファイル等が残ることがございますので特に必要のない場合は中断を行わないでください。

インストール場所の指定

SETUP.EXE が起動しますとインストールディレクトリを確認してきますので必要ならばインストールするディレクトリを入力し直してください。

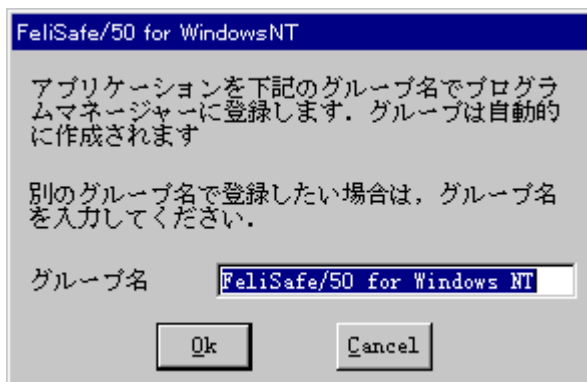
[OK] ボタンをクリックしますとインストールを開始し、ファイルのコピーが始まります。

UPS 接続ポートの指定

「接続ポートの選択」画面が表示されますので、UPS を接続しているポートを選択し、OK を押してください。

スタートメニュー (プログラマネージャ)へのグループの登録

インストールの最後に、下記のような画面が表示されます。必要がある場合は、グループ名等を変更してください。



以上で FeliSafe®/50 for Windows のインストールは完了です。

3. FeliSafe[®]/50 の起動

3.1. OS ごとの起動方法

WindowsNT の場合

FeliSafe[®]/50 for WindowsNT は WindowsNT のサービスとして動作しますので WindowsNT を起動する際に実行されます。

注) インストール作業後に再起動を行わない場合には FeliSafe[®]/50 for WindowsNT のサービス機能部分が実行されていませんので、後ほど WindowsNT の再起動を行うか、コントロールパネルの「サービス」を起動し、**FeliUPS** サービスを選択し開始を押してください。Windows2000 では「サービス」項目は、「コントロールパネル」-「管理ツール」にあります。

通常 FeliUPS はシステムアカウントで実行されます。

このままで基本的な動作に支障はございませんが、必要に応じて実行アカウントの変更を行ってください。

実行のアカウントが影響するのはリモートシャットダウン、ログファイルの記録およびイベント時のコマンド実行です。

FeliUPS サービスの各種動作設定や動作状況の確認は FeliSafe[®]/50 コントロールモニタにより行います。

Windows95・Windows98 の場合

FeliSafe[®]/50 for Windows95/98 は Windows95・Windows98 の起動時点で自動的に UPS 監視プログラム(FeliUPS)が起動されます。

Windows95・Windows98 起動時にログオンを行う設定の場合、ログオン実行前に FeliUPS は動作を開始しています。

FeliUPS サービスの各種動作設定や動作状況の確認は FeliSafe[®]/50 コントロールモニタにより行います。

3.2. 実行アカウントの変更

実行アカウントの変更は、FeliSafe[®]/50 for WindowsNT をご使用の方のみの操作です。WindowsNT では、Windows コントロールパネルのサービスを起動し、サービス一覧より FeliUPS を選択し、スタートアップを押します。

Windows2000 では、「コントロールパネル」-「管理ツール」のサービス一覧の「FeliUPS」のプロパティを表示し、「ログオン」タブをクリックして変更を行います。

「ログオン」内のアカウントをシステム アカウントからアカウントに変更します。

FeliUPS を実行時には以下の動作でユーザーの権限が影響します。

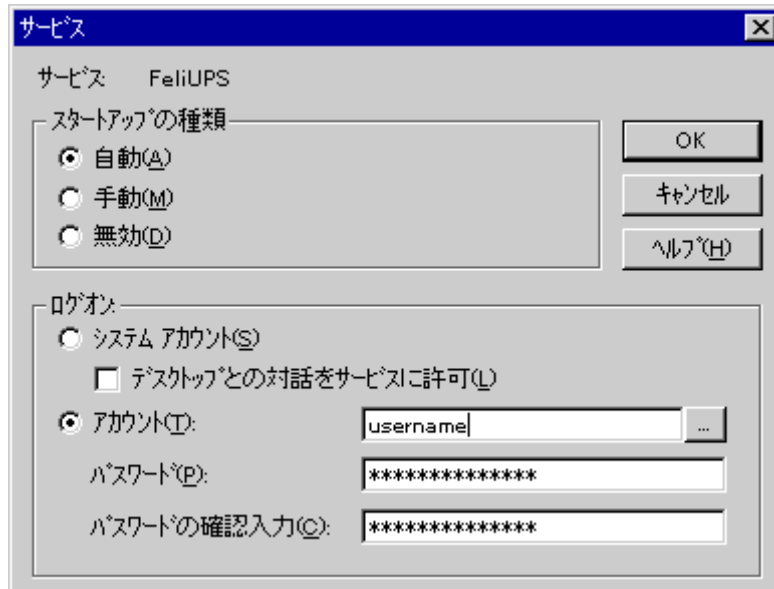
レジストリ(HKEY_LOCAL_MACHINE)のアクセス

計測記録ファイルのアクセス

スケジュールの記録へのアクセス

リモートシャットダウンの権限

別のマシン上におけるイベントコマンドの実行



アカウント欄に既存のユーザ名を入力し、そのパスワードを入力した後に「OK」で終了してください。

変更するアカウントはFeliUPSを正常に実行するために administrator と同等の権限を持つ必要があります。

4. FeliSafe[®]コントロールモニタの操作方法

4.1. FeliSafe[®]コントロールモニタ起動、終了

4.1.1. 起動方法

Windows2000 の場合

スタートボタンの「プログラム」にある FeliSafe[®]/50 for WindowsNT グループより起動してください。

WindowsNT Ver4.0 の場合

スタートボタンの FeliSafe[®]/50 for WindowsNT グループより起動してください。

WindowsNT Ver3.51 の場合

プログラムマネージャの FeliSafe[®]/50 for WindowsNT より実行してください。
FeliUPS が起動しているコンピュータ上で FeliSafe コントロールモニタを起動した場合は、ただちにその FeliUPS と通信を行いモニタを始めます。
FeliUPS が起動していない別のコンピュータ上で起動した場合はモニタ対象のコンピュータを指定するために サーバー選択ダイアログが表示されます。

Windows95 ・Windows98 の場合

スタートボタンの FeliSafe[®]/50 for Windows95/98 グループより起動してください。

Windows2000、WindowsNT Ver4.0 及び Windows95 ・ Windows98 ・ WindowsMe をお使いの場合は、FeliSafe[®]/50 を起動するとタスクバーのトレイ内にアイコン状態で表示されます。



コントロールモニタの画面を表示する場合はトレイ内のアイコン上でマウスの左ボタンダブルクリックを行うか、アイコン上で左ボタンをクリックして表示されるメニューで「元のサイズに戻す」を選択してください。

4.1.2. 終了方法

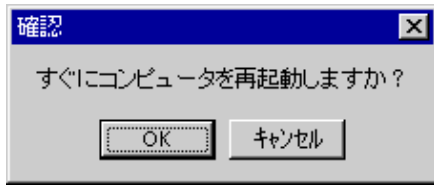
Windows2000 ・WindowsNT Ver4.0 ・Windows 95 ・Windows98 の場合

アイコン状態の場合はトレイ内のアイコン上でマウスの左ボタンをクリックして表示されるメニューで「閉じる」を選択してください。
通常表示の場合はコントロールモニタのウインドーメニューより「閉じる」を選択するか、コントロールモニタタイトルバー右端の x ボタンを押してください。

WindowsNT Ver3.51 の場合

コントロールモニタのコントロールメニューより「閉じる」を選択してください。

コントロールモニタは UPS 監視プログラム (FeliUPS) と常に連動して動作しておりますので、特に必要のない場合は下のメッセージがでましたら「OK」を選択して UPS 監視機能を同時に停止してください。

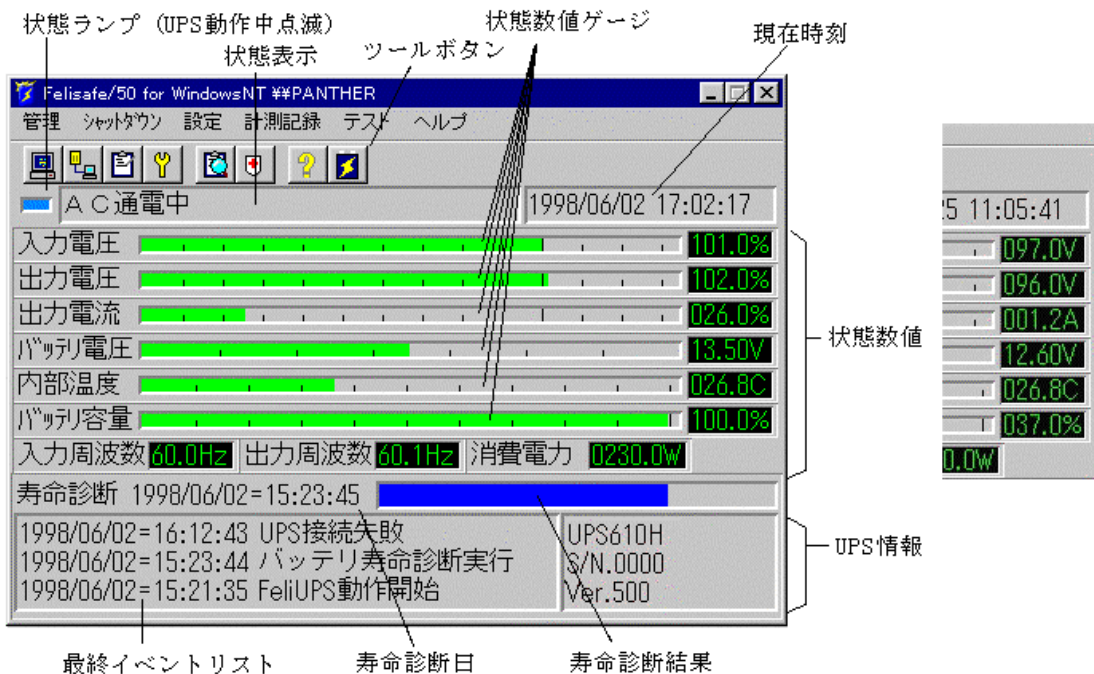


コントロールモニタのみを終了させた場合には正常に Windows の終了を行えない場合があります。再度動作させたい場合は Windows を再起動して実行してください。

4.2. FeliSafe[®]コントロールモニタ画面

4.2.1. 通常表示状態

通常のウィンドウ表示状態には下図のような情報を表示します。
なお、状態数値の値は、UPS のバージョンによって表示される数値が異なります。



状態表示

UPS の動作状態および FeliUPS の動作状態が表示されます。
状態表示欄に表示されるの項目と意味は、以下のとおりです。

FeliUPS 動作開始	FeliUPS 動作開始中です。
AC通電中	正常動作状態の時の表示です。
AC電源復旧	停電発生後に電源が再投入された場合の表示です。
AC停電発生	停電が発生した場合の表示です。
バッテリー限界	バッテリーの限界になった場合の表示です。
回路異常発生	UPS の内部回路に異常が発生した場合の表示です。
シャットダウン待機	シャットダウン開始までの待ち状態の場合の表示です。
シャットダウン開始	シャットダウン開始時の表示です。

UPS ファームウェアバージョンが Ver.200 以上でない場合には、入力電圧・バッテリー容量・入力周波数・出力周波数に関する情報を得られないため、画面上にその情報の数値ゲージ及び状態数値は表示されません。

モニタ間隔変更	UPS のモニタ間隔の変更が行われた場合の表示です。
バッテリー寿命診断実行	バッテリー寿命診断を行った場合の表示です。
自動終了実行	自動終了実行時の表示です。
UPS 接続失敗	UPS との通信に失敗した場合の表示です。
FeliUPS 動作失敗	UPS の動作開始に失敗した場合の表示です。
出力電圧超過	出力電圧が規定値を超えた場合の表示です。
出力電流超過	出力電流が規定値を超えた場合の表示です。
バッテリー温度低下	バッテリー温度が規定値を下回った場合の表示です。
バッテリー温度超過	バッテリー温度が規定値を超えた場合の表示です。
バッテリー電圧低下	バッテリー電圧が規定値を下回った場合の表示です。
バッテリー電圧超過	バッテリー電圧が規定値を超えた場合の表示です。
出力電圧低下	出力電圧が規定値を下回った場合の表示です。
出力電流低下	出力電流が規定値を下回った場合の表示です。
入力電圧低下	入力電圧が規定値を下回った場合の表示です。
入力電圧超過	出力電圧が規定値を超えた場合の表示です。
バッテリー容量低下	バッテリー容量が規定値を下回った場合の表示です。
バッテリー容量超過	バッテリー容量が規定値を超えた場合の表示です。
バッテリー寿命警告**	バッテリー寿命診断結果が警告規定値を下回った場合の表示です。
バッテリー寿命異常**	バッテリー寿命診断結果が異常規定値を下回った場合の表示です。
タイマーシャットダウン	タイマー動作(定時、スケジュール)によるシャットダウン実行の表示です。
シャットダウン取消し	シャットダウンの取消しを行った場合の表示です。
UPS オペレーション OFF	UPS の前面 OPERATION スイッチ OFF またはオプションの手元スイッチ OFF 動作時に表示されます。
未接続	FeliUPS と接続されていない場合の表示です。(FeliUPS が正常に動作していない可能性があります。)

状態数値

現在の UPS の状態が数値表示されます。

各数値の規定値は、以下のとおりです。

UPS 状態数値規定値

入力電圧 85% ~ 115%
 出力電圧 90% ~ 110%
 出力電流 0% ~ 110%
 バッテリー電圧 11.3V ~ 15.0V
 内部温度 0 度 ~ 40 度
 バッテリー容量/10% ~ 100%
 バッテリー寿命警告 10%以下 バッテリー寿命異常 0%

状態数値ゲージ

状態数値ゲージには現在の UPS の状態が表示されています。*

各数値が正常値の場合、ゲージは緑色で表示されていますが、規定値内ではない異常値の場合には赤色になります。

現在時刻

現在の日付時刻が表示されます。

最新寿命診断日

UPS のファームウェアバージョンが Ver.200 以上の場合にのみ表示されます。

** UPS のファームウェアバージョンが Ver.500 以上の場合にのみ表示されます。

* ファームウェアバージョンが Ver.500 以上の場合には状態数値ゲージの値とは表示内容が異なります。
 入力電圧、出力電圧、出力電流の数値は Ver.500 以上で出力パーセントではなく実際の値が表示されます。

最新の寿命診断実行日時が表示されます。

寿命診断結果

最新の寿命診断結果が表示されます。

最終イベントリスト

過去に起こった最新のイベントが表示されます。

(イベントログ記録の有無に関係なくすべてのイベントが対象となります)

UPS 情報

接続されている UPS の情報が表示されます。

UPS TYPE NAME	UPS形式名
S/N.????	UPSシリアルNo.
Ver.???	ファームウェアVer.

アイコン表示

アイコン状態の場合に FeliSafe アイコン上にマウスカーソルを移動することにより、現在の動作状態を表示します。



また、状態数値が一つでも規定値でない場合にはアイコンが赤色に変化します。

4.3. メニュー操作

メニュー項目は以下の項目になります。

また、メニューによる処理を、ボタンを押すことにより実行できます。対応する処理は、下図のとおりです。



4.3.1. 管理

サーバー選択

このサーバー選択は、FeliSafe®/50 for WindowsNT をご使用の方のみの操作です。

モニタおよびコントロールの対象となるコンピュータを指定します。FeliUPS が起動しているコンピュータに限られます。

ダイアログボックスのコンピュータ名に直接名前を入力するか、コンピューター一覧リストより選択して「確認」ボタンを押してください。

この機能により、選択したコンピュータで動作中の FeliUPS の状態をモニタすることが可能です。

administrator 権限でモニタを実行している場合には、すべての FeliSafe®/50 の操作をネットワーク上のリモートコンピュータより実行可能です。

コンピューター一覧の表示の際に「FeliSafe の表示」がチェックされていると、FeliUPS が起動しているコンピュータのアイコンに FeliSafe のアイコンが表示されます。

この場合、一覧の表示に時間がかかる場合があります。

「FeliSafe の表示」のチェックをはずすことにより表示の高速化が可能です。

コンピュータ名が空白の場合はコントロールモニタを起動したコンピュータ(ローカルマシン)を対象とします。

4.3.2.シャットダウン

シャットダウン設定

シャットダウン設定 #PANTHER

シャットダウンディレイ1 30 秒

シャットダウンディレイ2 60 秒

シャットダウン後UPS停止 120 秒

復電動作 起動

設定 取消

シャットダウン動作における各ディレイ時間の設定とUPS停止後の動作形態の指定をします。

各ディレイ時間についての詳細は停電時等のシャットダウン処理 (page 2-2) を参照してください。

「復電動作」欄において、停電によるUPS停止動作中または停止後に電源が復旧した場合の、UPS停止後の動作形態を指定します。「起動」の場合は、一度UPSを停止し、その後自動的に再起動を行います。「停止」

の場合にはUPSを停止し、その後の再起動は行われません。

定時設定

毎日の定時起動・シャットダウンを設定します。週単位での設定も可能です。

この機能はタイマーを内蔵しているUPSをご使用の場合のみに使用できます。

「タイマー動作を行う」をチェックすることにより毎日あるいは毎週指定された時刻や曜日により起動・シャットダウンを行います。各動作の時刻を24時間制による時刻で設定してください。

「日」にチェックを入れると、「運転停止日」の欄がアクティブになります。曜日により、運転する日としない日がある場合は、この状態で、運転しない曜日にチェックをしてください。

「週」にチェックを入れると、「起動時刻」「シャットダウン時刻」右側の欄がアクティブになり、起動する曜日とシャットダウンをする曜日が設定できるようになります。「運転停止日」欄は、設定できないようになります。毎週運転しない日が一定で、その曜日以外は、24時間運転をする場合は、こちらで設定してください。

シャットダウン時刻になりますとFeliSafe®/50 for Windowsはシャットダウン待機動作に入り、シャットダウンディレイ2設定時間の待機後シャットダウンを行います。シャットダウン後起動時刻にUPSが動作開始し電源供給を開始します。

タイマー動作設定

タイマー動作を行う

日 週

起動時刻 9 : 0 月

シャットダウン時刻 17 : 0 金

運転停止日

日 月 火 水 木 金 土

設定 取消

スケジュール

指定日における定時起動・シャットダウンや動作を行わない日の設定を行います。

この機能はタイマーを内蔵しているUPSをご使用の場合のみに使用できます。

スケジュールの設定方法

カレンダー上の希望の日を選択(日付上でマウスの左ボタンをクリック)しますと動作設定ダイアログボックスが表示されます。

対象日の設定を行う場合は「タイマー動作を行う」をチェックしてください。

動作時間を指定する場合は、定時設定と同様に時刻を設定してください。

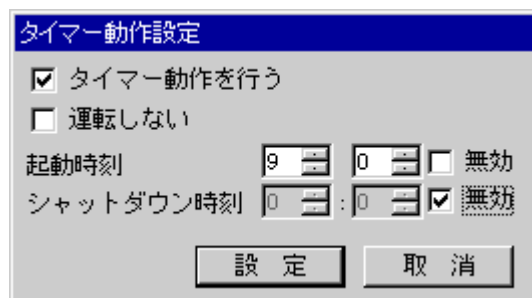
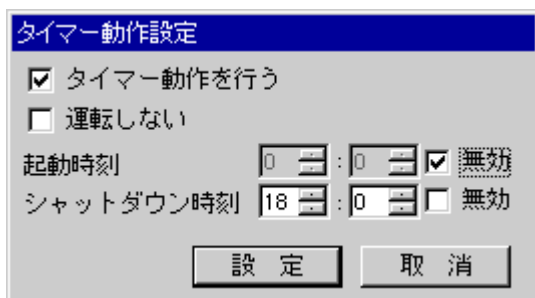
「無効」をチェックすることにより起動時刻、シャットダウン時刻を無視するように設定できます。

スケジュール設定 #PANTHER

対象年 1997 決定

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

設定 取消



対象日を動作しない日とする場合は、「運転しない」をチェックしてください。

「設定」ボタンを押して終了すると、その日付部分が「タイマー動作を行う」場合は青に「動作しない」設定した場合は赤になります。

対象年月の変更

設定する対象の月を変更する場合は、カレンダー上の月選択のボタンにより対象の月を選択してください。

別の年の設定を行う場合は対象年を入力して「決定」ボタンを押すことにより対象となる年が変更になります。

スケジュール動作について

定時設定での動作がしてあるばあいには、スケジュールでの設定の方が定時設定よりも優先されて動作を行います。

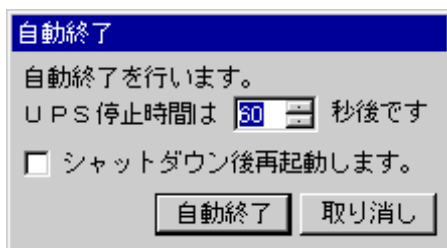
スケジュール設定を行っていない日は定時設定での動作を行います。

スケジュール設定でタイマー動作を行う設定の日はスケジュール設定による動作を行います。

「無効」チェックの使用により一定期間の停止指定が可能です。

自動終了

UPSに停止命令を送り、シャットダウンを行います。



シャットダウン開始から UPS 停止までの時間は初期値としてシャットダウンディレイ 3 が設定されていますので、必要に応じて変更してください。

「自動終了」を行いますと、ただちにシャットダウン待機を開始しシャットダウンディレイ 2 設定時間待機後シャットダウンを開始した後ダイアログボックス内の停止時間後に UPS が停止します。

「シャットダウン後再起動します。」をチェックした状態

で「自動終了」を行った場合には UPS 停止時間経過後 UPS が停止した後 1 分経過してから UPS が再起動して電源の供給を再開します。

この機能はタイマーを内蔵している UPS をご使用の場合のみに使用できます。

シャットダウン取消

シャットダウン動作の取り消しを行います。

取り消すことが可能なのはシャットダウン待機中(シャットダウンディレイ 2 設定時間内)の状態の時に限られます。

FeliSafe®/50 for WindowsNT をご利用の場合は、取り消しを行った場合にはリモートシャットダウンによってシャットダウン待機状態のコンピュータのシャットダウンも取り消されます。

リモートシャットダウン

このリモートシャットダウンに関わる項目は、FeliSafe®/50 for WindowsNT ご使用の方のみの操作です。

FeliUPS が動作しているコンピュータ以外のコンピュータをあわせてシャットダウンします。

リモートシャットダウンコンピュータの指定

追加する場合は、左側のリストよりコンピュータを選択するか、直接名称を入力してコンピュータ名欄にコンピュータ名を設定し、「追加>>」ボタンを押してください。

削除する場合は、右側の対象リスト上で削除するコンピュータを選択して「削除」ボタンを押して対象リストより削除してください。



リモートシャットダウン動作

動作の開始

リモートシャットダウンの指令はシャットダウン待機状態になるとともに発効されます。リモート側のコンピュータ上にはダイアログボックスが必ず前面に表示され、移動可能ですが閉じることは出来ません。

リモートの場合もシャットダウンまでの待機時間はシャットダウンディレイ 2 の値になります。

シャットダウン取消

リモートシャットダウンは FeliUPS のローカルなシャットダウンの取り消しとともに行われますので、FeliSafe コントロールモニターで「シャットダウンの取消」を行ってください。

リモートシャットダウンの注意点

リモートシャットダウン機能を使用する場合には FeliUPS の実行権限が重要になります。通常、インストール状態のままの FeliUPS ではシステムアカウントとしてログオンして実行されますがシステムアカウントはリモートコンピュータには解釈されないローカルなマシン上でのみ有効な特権アカウントです。

リモートシャットダウンを行いたい FeliUPS はリモートシャットダウンを行えるアカウントで実行できるようにサービスの実行アカウントを指定してください。

4.3.3.設定

UPS 設定

UPS 動作に関する設定を行います

接続ポート

UPS を接続する COM ポートを指定します。

モニタ間隔

この設定値の間隔で UPS の状態をモニタします。ただし停電の発生などのシャットダウン動作を行う異常状態は即座に通知されます。

FeliSafe®/50 for Windows 版で動作が不安定な場合は通信間隔を 10 秒以上にしてください。

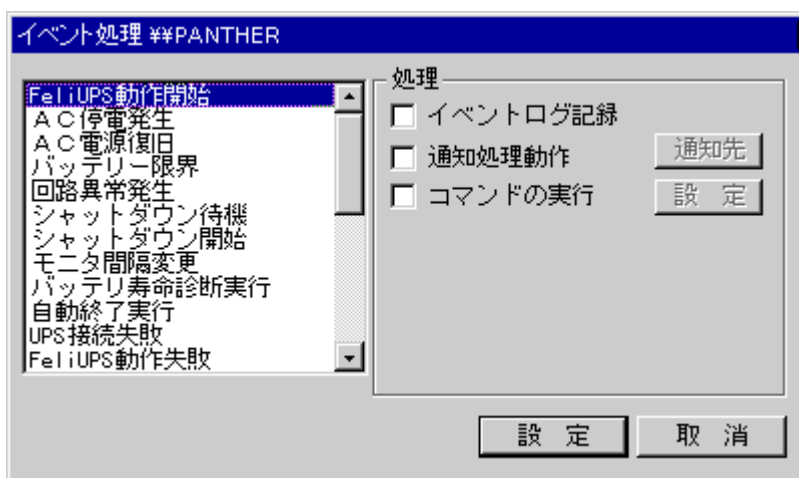
A C 復旧ディレイ



停電発生後、電源が復旧した場合にこの設定値が経過した時点までに異常がない場合に正常動作(AC通電中)と判断します。

イベント設定

UPSの動作状態に応じた各種動作設定を行います。



設定対象イベント

5.2.1の状態表示項目の「AC通電中」「未接続」を除く項目が、設定対象となります。
(各イベントについては状態表示(page 4-2)を参照)

設定方法

イベント名称リストより設定するイベントを選択して、処理内の設定したい動作にチェックをしてください。

イベントログ記録... イベント発生時にイベントログ記録設定ファイルへ保存します。

通知処理動作... イベントの発生時にネットワークメッセージを発行し通知を行います。

通知を受け取るためには、下記のことにご注意してください。

- ・ Microsoft WindowsNT の場合

コントロールパネルのサービスにおいて Messenger サービスが開始されていることをご確認ください。

- ・ Microsoft Windows95・Windows98 の場合

Winpopup.exeを起動しておく必要があります。

通知処理動作設定

「通知先」ボタンを押しますと通知先設定ダイアログボックスが表示されます。

- ・ 通知対象の選択

全部... ネットワーク上の全てのドメインを対象に通知を行います。

ドメイン or ワークグループ... リストに設定されているドメイン、ワークグループに対して通知を行います。

ユーザ or コンピュータ... リストに設定されているユーザ、コンピュータに対して通知を行います。

- ・ 通知対象の登録と削除

通知先名称を入力後、登録の場合は、「追加」ボタンを押してリストに追加してください。削除する場合は、リスト内で削除する通知先を選択して「削除」ボタンを押してください

コマンドの実行

イベントの発生時に指定されたプログラム・コマンドを実行します。

実行できるプログラム・コマンドにとくに制限はございませんが、実行するプログラム・コマンドは FeliUPS サービスの実行アカウントで実行できるようにアクセス権を設定しておく必要があります。

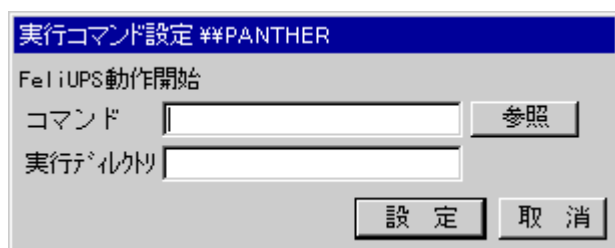
また、ログオンを行っていない状態でコマンドの実行が行われた場合にはウィンドウの表示およびプログラムへのキー入力が行えませんが実行コマンドに入力を伴わなければ実行を

継続、終了できないものは指定しないようにしてください。

・ コマンドの実行設定

「設定」ボタンを押しますと、実行コマンド設定ダイアログボックスが表示されます。コマンド欄に実行するファイル名を設定します。必要に応じて、拡張子とディレクトリも含めて設定してください。

コマンドの実行ディレクトリが特に必要な場合はディレクトリを設定します。



[参照]ボタンを押しますとファイルを選択するダイアログボックスが表示され、それにより実行コマンドを選択できます。

ダイアログボックスの詳しい使用方法は Windows のマニュアル等を参照してください。

計測記録

計測記録-設定



計測記録

UPSの動作状態(入力電圧、出力電圧、出力電流、バッテリー電圧、内部温度、バッテリー容量)の記録に関する設定を行います。

「記録する」

計測記録を行う場合にチェックしてください。

「計測間隔」

何回の動作状態毎に記録を行うか指定します。

(15秒間隔でモニタしている場合に、計測間隔4回ならば、1分毎の計測記録を行います。)

ただし、シャットダウン動作に関連する「停電」「バッテリー異常」「回路異常」が発生したときは、即座にその時点の状態を計測間隔に関係なく記録します。

その場合の記録は計測記録確認のリスト内で右端に“*”が表示されます。

「最大記録回数」

最大何件の計測記録を保存するかを指定します。

「記録ファイル名」

計測記録を保存するファイル名をドライブを含めたフルパスにより指定してください。またネットワークドライブ上のファイルを指定することはできません。

イベント記録

UPSのイベントの記録に関する設定を行います。

記録されるのはイベント設定でイベントログ記録を行うよう設定されたイベントのみです。

「記録する」

イベント記録を行う場合にチェックしてください。

「最大記録回数」

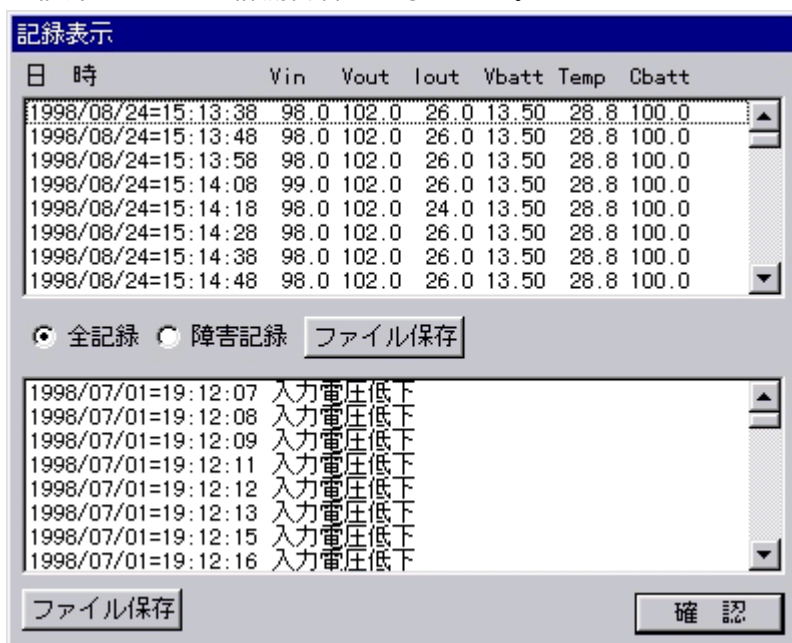
最大何件のイベント記録を保存するかを指定します。

「記録ファイル名」

計測記録を保存するファイル名をドライブを含めたフルパスにより指定してください。またネットワークドライブ上のファイルを指定することはできません。

計測記録-確認

記録されている計測内容を表示します。



表示される画面で、上段のリストは UPS の状態数値の記録であり、障害記録をチェックすると、状態数値のうち異常イベント発生時の数値のみを表示します。

下段のリストはイベント設定でイベントログの記録を行うように設定したイベントの記録です。

「ファイル保存」ボタンで、上段、下段各々の表示内容をファイルとして保存できます。

保存ファイルは CSV 形式で以下のような内容で保存されます。

状態数値記録

1998/08/26,07:54:31,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:54:41,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:54:51,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:01,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:11,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:21,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:31,101.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:41, 98.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:55:51,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0
1998/08/26,07:56:01,100.0, 97.0, 4.0,12.60, 31.8, 40.0


イベント記録

1998/08/25,11:22:10,バッテリー寿命診断実行
1998/08/25,11:50:09,FeliUPS 動作開始
1998/08/25,14:55:07,FeliUPS 動作開始
1998/08/25,14:55:24,モニタ間隔変更
1998/08/25,14:57:27,FeliUPS 動作開始
1998/08/25,14:58:05,バッテリー寿命診断実行
1998/08/27,14:10:26,FeliUPS 動作開始

テスト

寿命診断

寿命診断を開始し、その状態表示を更新します。(診断中はピープ音が鳴ります)
診断結果をもとに現在のバッテリー状態と診断日時とを表示します。

寿命診断 1998/06/02=15:23:45 

ゲージの表示色によりバッテリー状態を判断できます。

青:バッテリーは正常です。

黄:バッテリーの交換時期が近づいています。

赤:バッテリーを交換してください。

FeliSafe 起動時及び指定時間 (24:00) に自動的に寿命診断を行います。

ヘルプ

FeliSafe®/50 ヘルプ

FeliSafe®/50 for Windows のヘルプを表示します。

FeliSafe®/50 について

FeliSafe®/50 for Windows のバージョン表示等を行います。

シャットダウン動作について

4.4. FeliSafe®/50 for Windows によるシャットダウン

FeliSafe®/50 for Windows の機能によるシャットダウンの動作は通常の「スタート」「シャットダウン」(プログラムマネージャ)によるシャットダウンとは異なり、動作中のプログラムの終了を待たずに強制的にシャットダウンを行います。

シャットダウン待機状態になった時点で速やかに動作中のプログラムの終了、保存していないデータの保存を行ってください。

4.5. FeliSafe®/50 for Windows 以外でシャットダウンを行った場合

プログラムマネージャやその他の FeliSafe®/50 for Windows 以外の機能によりシャットダウンを行った場合には UPS に対して次回起動時の設定が行えませんので、定時指定やスケジュール指定での起動ができません。

その場合には UPS 前面の OPERATION スイッチにより再起動してください。

4.6. シャットダウン取り消しを行った場合

設定時間により開始したシャットダウン動作を取り消した場合には次の日のシャットダウン設定時刻になるまでシャットダウンは行われません。

次回起動時の UPS 設定も行われませんので、取り消した後は自動終了 (page 4-6) によりシャットダウンを行ってください。

4.7. 設定時間以外の起動

定時設定、スケジュール設定によって停止している時間に起動を行いたい場合は、UPS 前面の OPERATION スイッチにより再起動してください。

この場合も次回起動時の UPS 設定を行うために自動終了 (page 4-6) によりシャットダウンを行ってください。

4.8. UPS タイマーの限界について

UPS 内のタイマー用バッテリーの限界により、スケジュール設定した後に UPS の AC 入力を長時間切断した場合、再度 UPS の AC 入力を復帰してもスケジュールによる UPS の再起動が行えない場合があります。

その場合には UPS 前面の OPERATION スイッチにより再起動してください。

5. OS のアップグレードについて

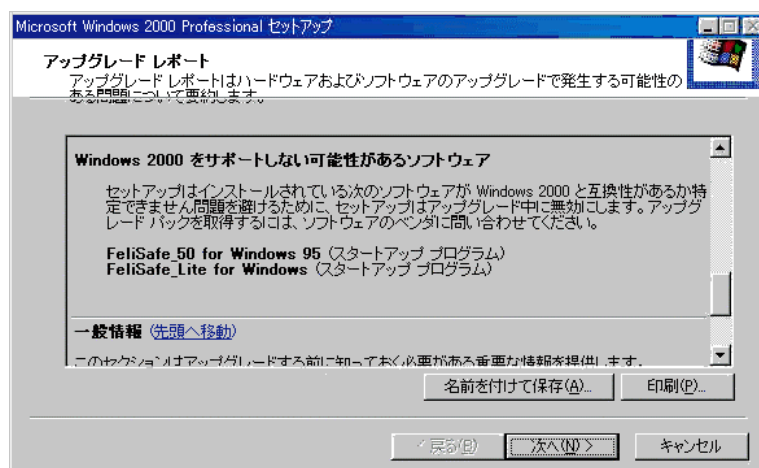
5.1. FeliSafe ご利用中の OS のアップグレードインストール

5.1.1. WindowsNT Ver4.0 から Windows2000 へのアップグレード

FeliSafe/50 for WindowsNT をお使いの場合は、特にアップグレードによる特別な操作や問題点はございません。
アップグレード後引き続きそのままご利用いただけます。

5.1.2. Windows95/98 から Windows2000 へのアップグレード

Windows95/98 で FeliSafe/50 for Windows95/98 をご利用の場合、そのままアップグレードしても正常に動作いたしません。
アップグレード時に Windows2000 をサポートしない可能性があるソフトウェアとして無効にされますので、アップグレード開始前にアプリケーションの削除を行い、Windows2000 動作後に改めて FeliSafe/50 for WindowsNT をインストールして下さい。



削除を行わないで Windows2000 へのアップグレードを行ってしまった場合

FeliSafe/50 の場合は Windows2000 起動後にアプリケーションの追加と削除で「FeliSafe/50 for Windows95」を削除してください。

5.1.3. Windows95/98 から windowsMe へのアップグレード

Windows95/98 で FeliSafe/50 for Windows95/98 をご利用の場合、特にアップグレードによる特別な操作や問題点はございません。
WindowsMe にアップグレード後引き続きそのままご利用いただけます。
OS アップグレード後、FeliSafe®/50 for Windows のアップグレードをなさる場合は、インストール中に「feliups.exe が実行中です。」とメッセージが表示される場合がございますので、インストール前に「2.1.2 以前の FeliSafe®/50 をご使用の場合の注意点」(page 2-2) をご覧ください。

6. ご利用いただく際の注意点 - 必ずお読みください

UPS の HYPER シリーズをご利用の場合

HYPERシリーズでは、拡張ボードにより RS232C を使用し、複数台のコンピュータを接続できますが、スケジュール運転は標準搭載した RS232C ポートに接続されたコンピュータからのみ有効となります。

WindowsNT をネットワーク接続せずに単体で使用する場合の注意点

FeliSafe®/50 for WindowsNT は動作のためにネットワーク機能を使用しますので、スタンドアロン使用の Windows NT においてもなんらかのネットワークプロトコルを追加しておく必要があります。ネットワーク機能がインストールされていない場合は、下記の方法でネットワークプロトコルを追加してください。

ネットワーク追加手順

コントロールパネルのネットワークを起動し、アダプタを選択、「追加」を実行し、一覧より MS Loopback Adapter を選択して「OK」を押します。MS Loopback アダプタカードセットアップの画面が表示されるので、そのままの状態ですべて「OK」を押します。

次に、プロトコルを選択、「追加」を実行します。特に設定の必要がない NetBEUI プロトコルを選択して「OK」を押します。

以上で「OK」を押して終了です。

シャットダウン後の再起動について

「スタート」「シャットダウン」(プログラムマネージャ)によるシャットダウン時に、自動的に電源が切れるマシンでは、FeliSafe®/50 for Windows の機能によるシャットダウン後に自動的に電源が入りません。この機能をご利用になる場合は、電源が自動的に切れないように BIOS 画面で、POWER management を disable にしてください。具体的な設定方法がご不明の場合は、ご利用いただいているマシンのメーカーにお問合せください。

アクティブ デスクトップについて

アクティブ デスクトップを有効にされている場合は、FeliSafe®/50 for Windows が正常に動作しない可能性があります。アクティブ デスクトップを無効にして、ご利用ください。

「定時設定」のシャットダウン時刻の設定について

「定時設定」のシャットダウン時刻で設定した時刻から、「シャットダウン設定」で設定したシャットダウンディレイ 2 の時間経過後の時刻が 0 時を越えると、起動時間をその時点の翌日の該当時間と解釈するために、希望日時に起動しない場合がございます。

そのため、シャットダウンディレイ 2 に設定してある時間分およびシステム動作に関する分単位の余裕をもって終了時刻を設定してください。